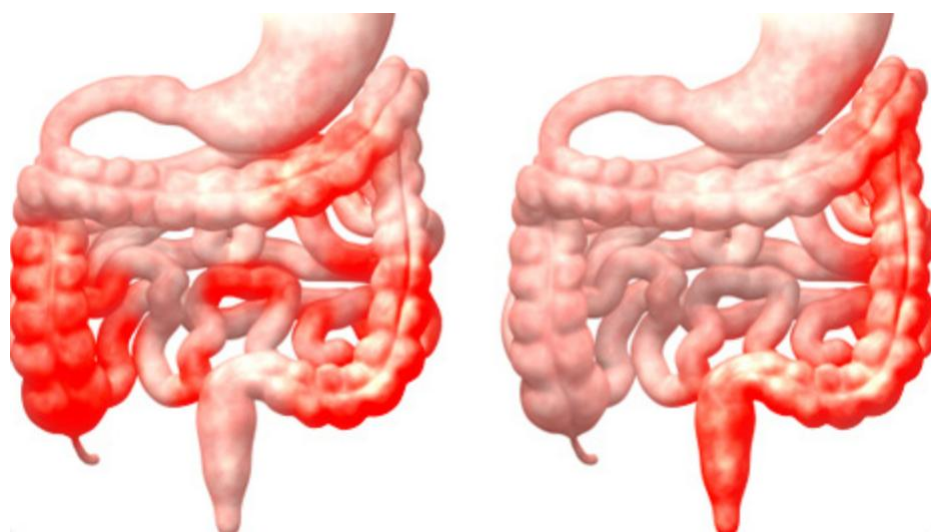


糖尿病治療薬の炎症性腸疾患との関連について

カナダ・McGill 大学の Devin Abrahami 氏らは、糖尿病治療薬を開始した 18 歳以上の 2 型糖尿病患者 14 万例超を対象に、DPP-4 阻害薬と炎症性腸疾患（IBD）の関係を検討。その結果、DPP-4 阻害薬は他の糖尿病治療薬に比べて IBD 発症リスクが 75% 高かったとする報告を医学雑誌 *BMJ* に発表しました。



過去の観察研究で、DPP-4 阻害薬の使用により IBD を含む複数の自己免疫疾患の複合リスクが低下したことが示されているため、今回の結果の再現性について、今後の結果が待たれます。

